

次期男女共同参画せんだいプラン策定に向けた 市民参加の取り組みについて

1 目的

次期男女共同参画せんだいプランの策定に向けて、男女共同参画推進に係るさまざまな立場の方と意見交換を行い、現状や課題、提言について把握するもの。

2 時期・回数

令和元年9月～11月（全3回）

※ 第1回及び第2回の実施状況については、令和元年度第2回男女共同参画推進審議会

資料 4を参照

3 内容

(1) 「男女共同参画推進せんだいフォーラム 2019」

「聴かせて！参画プランへのメッセージ」と題して、次期男女共同参画せんだいプランの策定に向けた現状の課題と今後の施策に対する期待（要望）を伺う対話型展示企画を実施。

「これまでの取り組みの評価」や「あなたが次期プランに期待すること」を付箋紙に記入いただき、ホワイトボード等に貼付・展示して参加者と情報共有した。

日時：令和元年11月23日（土・祝）・24日（日） 各日12：00～16：00

場所：仙台市男女共同参画推進センター（エル・パーク仙台）

参加者：一般市民、仙台市男女共同参画推進センター（エル・パーク仙台、エル・ソーラ仙台）を拠点に活動する市民グループ 他（40名）



【対話型展示企画で挙げられた市民意見概要】

※「男女共同参画せんだいプラン 2016」（平成 28 年度～令和 2 年度）の計画体系の柱に掲げる 6 つの基本目標のカテゴリ毎に、「これまでの取り組みの評価」と「課題・未来への提案」の意見を分類したもの

基本目標	これまでの取り組みの評価	課題・未来への提案
① 政策・方針決定過程への女性の参画	<ul style="list-style-type: none"> ・十分ではないが、女性への支援は少しずつ整備されてきた。 ・女性の総合職・管理職が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のジェンダーギャップ指数順位が世界的にもかなり低い。 ・組織の中の上層部・下層部いずれにも同程度女性がいると良い。（管理職の数を男女同数に近づける。） ・町内会のリーダーに女性を増やす。 ・議員数を男女同数に近づける。 ・社会や地域の、より実践場面での女性の活躍に期待。
② 男女共同参画への理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちや若年世代を中心に、一昔前と比べて男女共同参画は進んできた印象。 ・妻が夫の従属者ではない社会が進んできている。 ・学校教育の現場では、教員・子どもたち・保護者も少しずつ男女共同参画意識が育ってきている。 ・これまでの教育などの取り組みの積み重ねから、次世代を担う子どもたちが大人になる頃の男女共同参画社会の進展が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期からの人権教育や主体性・自主自立を育む成功体験が必要。大人も子どもも、男性も女性も自由に意見が言える雰囲気づくり。 ・次世代の子どもたちに男女格差を渡さないよう「今」しっかり取り組む。 ・中高年を中心に、固定的性別役割分担意識が根強い。「男女共同参画」とは何か？の理解がそもそもまだ進んでいないのではないかな。 ・男性はこうした男女共同参画事業に参加しないものという固定観念が強い。 ・中高年男性を中心に、男女共同参画に関する啓発・呼びかけが必要。 ・女性自身も固定概念を変えていくことが必要。 ・男女の役割分担について、共同参画を進める部分とそれぞれが担っていくべき役割の線引きは一定程度守られる考え方も重要。
③ 男女の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市男女共同参画推進センターの託児を利用して昇任試験を受ける女性を多く見かけ、意識改革や基盤整備の充実による女性活躍の進展に期待。 ・若い世代を中心に育児や家事に参加する男性（夫婦での参加）が増え、少しずつ意識や考え方が変わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児休業中のパパママ同士が交流できる機会を設ける。 ・男子トイレへのオムツ交換台の設置。 ・男性の育児休業取得の制度はあるが、上司の理解が不十分な場合がある。企業（特に管理職）への理解促進が必要。

基本目標	これまでの取り組みの評価	課題・未来への提案
(前頁からの続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所や託児のお迎えにも男性が増えてきた。 ・ 「お父さんと子ども」で街を歩く姿を見ることが増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未就学児期の男性の育児参加は増えてきたが、小学校就学後から減少していく傾向にある。 ・ 親の介護の負担、仕事との両立の問題が増加している。
④ 男女が共にいきいきと働ける労働環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理工系女性学生や女性の土木職が増えてきた。 ・ 男性の保育士・介護士・医療スタッフの増加。 ・ 仙台市が実施している男性向けの相談試行事業が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼少期・学童期からの男女共同参画やキャリア教育が必要。 ・ 未だ残る男女の賃金格差の解消。 ・ 女性向けはもちろんのこと、男性向けにも支援の充実が必要。男性相談窓口の常設等により、自殺率が高い男性の孤独を予防する。
⑤ 女性に対する暴力の根絶・生涯を通じた健康支援	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定的性別役割分担意識が根強い。男性が弱音を吐けない、女性は耐える文化が残っている。多様化するDVに地域や周囲が救済・介入できる仕組みづくりも必要。 ・ 女性が被害者となるSNSを利用した事件が多い。子どもたちへのしっかりとした教育が必要。 ・ 男性のDV被害者もいる。あらゆる関係性でのDVの根絶が必要。
⑥ 復興・未来へつながるまちづくりにおける男女共同参画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営者に、女性防災リーダーが含まれるようになってきてとても良い。 ・ 若い世代を中心に男女共同参画意識が芽生えつつある。現状の地域体制を無理に変えるのではなく、これまでの経験等を引継ぎながら、地域活動の世代交代により、若者も含め、男性も女性も地域社会に関わっていくまちづくりに期待。 ・ LGBTについて国政選挙公約にも挙げられるなど全国的にも進展・浸透。 ・ LGBTに関して、カミングアウトやそれを受け入れる周囲の環境が進んできた印象。 ・ 多様な性の理解促進について、少しずつではあるが、仙台市の取り組みも増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災まちづくりはもちろんのこと、日常の地域生活でも女性の声が必要。 ・ 「〇〇男子」「〇〇女子」という表現が未だに多い。男女の二分化に捕らわれない、多様性を認め合う社会の実現（男性の弱音やLGBTなども普通である社会）。 ・ LGBT施策のあり方について検討を進めていくべき。 ・ 学校教育にLGBTに関する取り組みを積極的に取り入れていく。（いじめ対策も“他者との違いを学ぶ”ことから始まる。） ・ ひとり親家庭が増えているが、それも普通な時代になってほしい。次代を担う子どもたちへの支援のためにも、ひとり親家庭や生活困窮者への支援を充実させていく。 ・ 70～80代に地域で活躍できる場を提供する。